

部 方 針 書

年度	部名	部長名
R7	健康福祉部	中村淳一

1 部の経営方針(部全体を俯瞰したマネジメントの目標)

No	項目(業務、組織、人材等に関するマネジメント目標)
1	業務上の失敗、小さな違和感、現場で発見したこと、スケジュールの遅れなどを放置することなく、業務の改善・成果に結びつける。
2	より多くの市民と職員の笑顔のために、これまでの手法や体制、慣習などを着実に改善する(見直す)。
3	部内各課間の情報共有、連携体制を高め、市の様々な制度や事業にも関心を持って、関連しそうなことには進んで関わる。
4	様々な関係機関・団体等に理解を得ながら、対等なパートナーとしてお互いに価値のある関係の構築に努める。
5	自発的な行動を促すために、ポジティブ言葉、チャレンジ言葉を引き出すようなコミュニケーションを心がける。
6	管理職が模範として、絶えず学習・経験を重ね成長していく姿を示すことで職員の成長を促す。
人財育成・内部統制	①認め、任せることで、自ら進んで業務に取り組む熱意と行動力ある職員を育成 ②脱前例踏襲(法令等確認) ③リスク一覧等の定期確認

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R7	地域福祉課	東原 隆

1 課の使命

どのような責務を負っているか、存在理由

高齢者や障害者をはじめ、全ての市民が日常、災害時を問わず、心豊かで安心・安全な暮らしができるよう、地域を基盤として、住民や団体、保健福祉の関係者など多様な主体が分野や属性の壁を越えた協働を実践する「地域共生社会」の実現を目指す。
また、市民が必要とする保育や介護などの社会福祉サービスが円滑かつ安定的に提供されるよう、社会福祉法人の運営や事業に対して、必要かつ確かな助言、指導監査を行う。

2 課の目標

	ありたい姿、達成したいこと(アウトカム)	関連計画	目標指標(単位)	最終目標値	R6実績(見込)	R7目標値	未来PJ
1	災害時において、市民が安心・安全に避難することができる。	前期実計	①避難所ごとの運営マニュアルの作成数 ②災害時要援護者に対する個別避難計画作成割合	①63か所 ②累計600件(同意者全件)	①0か所 ②累計200件	①12か所 ②累計400件	—
2	判断能力が不十分になっても、自分らしく日常生活を送ることができる。	前期実計	関係機関との連携により成年後見制度の利用につながった件数【累計】	110件【累計】	75件【累計】	95件【累計】	—
3	住民や団体、保健福祉の関係者などの多様な主体が分野や属性の壁を越えた協働を実践する「地域共生社会」の実現する。	前期実計	第三次宇部市地域ふくしプラン策定	—	—	計画策定	—
人財育成・内部統制	課内のコミュニケーションを促進し、気付きの共有や、活発な意見交換ができる風通しの良い職場環境を構築することで、事務処理ミスを未然に防止するとともに個々のスキルアップを図る。						

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R7	生活支援課	重富 暁夫

1 課の使命

どのような責務を負っているか、存在理由

病気や失業などの理由で収入がなくなり、生活に困っている市民に対し、困窮の程度に応じて必要な保護を行うとともに、自分の力で生活していけるよう支援を行う。

2 課の目標

	ありたい姿、達成したいこと(アウトカム)	関連計画	目標指標(単位)	最終目標値	R6実績(見込)	R7目標値	未来PJ
1	適時適切な支援により被保護世帯が自立阻害要因を克服し、早期に生活保護から自立する。	その他	保護開始後3か月間の毎月の対面支援実施率 保護開始後3か月以内に就労開始した世帯数	100% 30世帯	— 11世帯	100% 30世帯	—
2	子どもたちの自立した生活を営む選択肢が広がることによる貧困の連鎖解消。	前期実計	生活保護受給世帯の高校進学率	100%	92.9%	100%	—
3	被保護者が自発的な健康管理を実施することで医療扶助費の削減を図るとともに、就労の可能性を広げ、自立した生活につなげる。	前期実計	健康管理支援により健康行動に改善が見られた生活保護受給者数	R8年度 50人	43人	46人	—
人財育成・内部統制	ケースワーカーのスキルが向上し、被保護世帯に対してより適時適切な支援ができる。		ケースワーカーのスキルアップ研修	22回	20回	22回	—

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R7	障害福祉課	西條 元康

1 課の使命

どのような責務を負っているか、存在理由

障害者が地域で安心して暮らせるよう、相談支援体制の充実と適切なサービスの提供、さらに、障害に対する理解を地域社会に浸透させることで、障害を理由とする差別の解消と合理的配慮の提供の取組を促進するとともに、就労支援をはじめとした障害者の自立と社会参加を促進し、障害のあるなしにかかわらず、互いの個性を認め合い、いきいきと安心して暮らせる地域共生のまちづくりを推進する。

2 課の目標

	ありたい姿、達成したいこと(アウトカム)	関連計画	目標指標(単位)	最終目標値	R6実績(見込)	R7目標値	未来PJ
1	発達障害に関する支援体制の充実	個別計画(障害者福祉計画)	発達障害総合相談センター(仮称)の設置	センター設置(R8年度)	-	センターの仕様決定	未来1
2	障害福祉サービス等の安定的な提供	個別計画(障害福祉計画、障害児福祉計画)	見直し事業(数)	4事業(R8年度)	3事業	4事業	未来5
3	障害者の社会参加及び障害に関する理解の促進	個別計画(障害者福祉計画)	市民交流棟でのイベント等開催(回数)	5回(R8年度)	-	3回	未来1
人財育成・内部統制	<ul style="list-style-type: none"> ・前例踏襲で仕事をせず、常に新しい視点でチャレンジする組織風土を醸成する ・1人だけで情報を保持せず、報連相を密に行い、いい情報も悪い情報も共有する ・スケジュール管理を適切に行い、市民サービスの向上を図る 						

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R7	高齢福祉課	伊藤 志奈子

1 課の使命

どのような責務を負っているか、存在理由

第9期宇部市高齢者福祉計画の基本理念である「高齢者が生きがいを持って自分らしく暮らせる、支え合い助け合う地域共生のまち」の実現に向け、生きがいづくり・健康づくり・介護予防を推進する。

2 課の目標

	ありたい姿、達成したいこと(アウトカム)	関連計画	目標指標(単位)	最終目標値	R6実績(見込)	R7目標値	未来PJ
1	高齢者が生活機能を向上させ、自立した生活を継続できる。	個別計画 (高齢者福祉計画)	短期集中予防サービス 卒業率	R9年度 65%	—	60%	未来1
2	高齢者が就労等により積極的に社会参加し、生きがいを持って自分らしく暮らせる。	個別計画 (高齢者福祉計画)	マッチング件数	R8年度 120件	—	100件	未来1
3	家族介護者への支援の充実により、在宅介護を希望される方やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる。	個別計画 (高齢者福祉計画)	①アドバイス事業 ②サポート事業利用件数	R8年度 ①20件 ②63件	—	①10件 ②20件	未来1
人財育成・内部統制	新規採用職員2名を課をあげて計画的に育成すること、及びリスク一覧表に基づくモニタリングを徹底することにより、質の高い高齢福祉サービスを提供する。		—	—	—	—	—

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R7	介護保険課	穂積 紀子

1 課の使命

どのような責務を負っているか、存在理由

高齢者が、住み慣れた地域で、尊厳を持って自分らしく生活できるよう、第9期宇部市高齢者福祉計画の基本理念である「高齢者が生きがいを持って自分らしく暮らせる、支え合い助け合う地域共生のまち」の実現に向け、要介護状態となっても必要な人に必要なサービスが適正に提供できるよう、持続可能な介護保険制度の運営に努める。

2 課の目標

	ありたい姿、達成したいこと(アウトカム)	関連計画	目標指標(単位)	最終目標値	R6実績(見込)	R7目標値	未来PJ
1	介護保険サービスが「自立支援」に資する目的で適正に提供され、利用者の生活の質の向上が図られるとともに、持続可能な介護保険制度が構築されている。	個別計画 (高齢者福祉計画)	介護給付等適正化の促進 ①ケアプラン点検数(年) ②住宅改修の点検数(年)	①200件 ②48件 (R8年度)	①128件 ②45件	①200件 ②48件	未来5
2	高齢者が生活機能を向上させ、自立した生活を継続できる。	個別計画 (高齢者福祉計画)	要介護認定率	19.1% (R8年度)	20.4%	20.2%	未来5
3	介護人材の充足により、介護現場の労働環境が改善し、定着率が向上することで、より安定的な介護保険サービスが提供される。	前期実計	介護人材の確保人数 (累計)	105人 (R8年度)	90人	105人	未来5
人財育成・内部統制	<ul style="list-style-type: none"> 課内OJTや施設見学等要介護高齢者と接する機会を通じて制度の知識や現場感の醸成を図ることで市民サービスの向上につなげる。 危機管理意識を高め、凡事徹底する。 						

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R7	健康増進課	井上 篤史

1 課の使命

どのような責務を負っているか、存在理由

市民が生活習慣病の発症・重症化及びフレイル・介護を予防できるよう各種保健事業を実施するとともに、関係機関・団体との連携・協働・共創により、健康づくりの活性化・心身の健康づくり、地域の健康づくりに取り組み、市民一人ひとりの健康づくりが生活の中で習慣化し、家庭や地域社会に広がり、次世代に伝えていく「健康文化」のあるまちづくりを推進し、市民の健康寿命を延伸する。

2 課の目標

	ありたい姿、達成したいこと(アウトカム)	関連計画	目標指標(単位)	最終目標値	R6実績(見込)	R7目標値	未来PJ
1	女性による健康づくりの取組が家庭や地域、職域等に波及し、健康意識が高まり、運動や食事等の健康行動を実践するとともに、相談・受診等の適切な対応ができる人が増え、疾病の発症及び重症化、フレイル等が予防できる。	前期実計	①骨粗しょう症検診受診率 ②生活習慣改善(運動・食事等)の取組を実施している人の割合	① — ②54.0%	①5.6% ②51.1%	①5.9% ②53%	未来1
2	身近な人からの健康情報の伝達や健康づくり活動の運営などに地域人材を活用することで、地域主体の健康づくりへの意識の醸成につながり、地域の健康づくりの取組が活性化する。	その他	健康づくりに協力する健康サポーター数	—	125人	156人	—
3	望まない受動喫煙を防止する。	その他	受動喫煙防止に向けた指針の作成	—	—	指針作成	未来1
人財育成・内部統制	保健センター及び地域に専門職が駐在、新採から主任、管理職員まで幅広い専門職が配置されており、若手専門職のスキルアップを図るとともに職員間の知識共有と、経験豊富な職員による若手職員の育成をはじめとした互いにサポートし合える体制づくりをしていく中で、健康づくりを効果的に推進できるチームを構築したい。						

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R7	地域医療対策室	塚本 加勺里

1 課の使命

どのような責務を負っているか、存在理由
市民が休日や夜間の急病に対し、いつでも安心して適切な初期救急医療を受けられるよう、一次救急医療機関である休日・夜間救急診療所の安定的な運営に取り組むとともに、宇部・小野田保健医療圏の関係機関と連携し、二次救急医療体制の維持を図る。

2 課の目標

	ありたい姿、達成したいこと(アウトカム)	関連計画	目標指標(単位)	最終目標値	R6実績(見込)	R7目標値	未来PJ
1	市民が救急時の正しい受診方法等を理解し適切に行動することにより、地域の医療体制が維持され、市民が安心して暮らせるようになる。	前期実計	救急搬送における軽症者の割合	R8 19.0% (暦年) ※実績により 上方修正	20.0% (暦年)	19.5% (暦年) ※総合計画 26.0%(暦年)	未来1
2	宇部・小野田保健医療圏内の医療機関の協力・連携により、傷病者を医療機関に早期に搬送でき、傷病者の救命効果を高める。	その他	輪番時間帯搬送交渉成立回数が3回以下の割合	—	92.2% (暦年)	93.0% (暦年)	未来1
3	休日・夜間救急診療所の環境及びシステム等を改善することにより、感染症の流行期や一般病院が長期に休診となるGW・年末年始などの混雑状況を緩和し、急病患者に対して円滑な診療を提供する。	その他	混雑状況の緩和	—	—	混雑状況 緩和に伴う 患者への 円滑な診療	—
人財育成・内部統制	凡事徹底を念頭に置き、職員が自らの意見を躊躇なく積極的に発言できる職場環境の醸成を図り、意見交換等を行いながら個々においては新しい事にも積極的に挑戦し、組織としては協力体制を構築する。						

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R7	保険年金課	田中 晶子

1 課の使命

どのような責務を負っているか、存在理由

- ・市民が適切な医療の提供を受けられるよう、社会保障制度の中核である国民健康保険制度及び後期高齢者医療制度を健全かつ安定的に運営する。
- ・市民が生活習慣病の予防・早期発見やフレイル予防を図ることで健康寿命が延伸するよう、データヘルス計画等に掲げる施策を推進する。

2 課の目標

	ありたい姿、達成したいこと(アウトカム)	関連計画	目標指標(単位)	最終目標値	R6実績(見込)	R7目標値	未来PJ
1	国保保険料収納率の向上による国保財政の健全化	個別計画(債権管理計画)	国保保険料(現年度分)収納率	96.70%(R8)	92.20%(見込)	95.50%	—
2	国保被保険者の健康寿命の延伸及び医療費の適正化による国保財政の健全化	個別計画(第3期データヘルス計画)	特定健診受診率	60.0%(R11)	34.6%(見込)	41.0%	未来5
3	国保被保険者の健康寿命の延伸及び医療費の適正化による国保財政の健全化	個別計画(第3期データヘルス計画)	糖尿病未治療者医療機関受診率	85%(R11)	78.8%	80.0%	未来5
人財育成・内部統制	(内部統制)電算処理誤りをきっかけにR6年度に整備した課内電算処理ルールを改めて共有し、順守を徹底する。						